

筑波大学大学院 人間総合科学研究群 博士後期課程 教育学学位プログラム

大学院進学説明会

2021年6月19日開催

【令和4年度入試日程】

☆10月実施：学力検査 2021年10月15日（金）

☆2月期入試：学力検査 2022年2月1日（火）

募集要項 公開中

募集要項サイト <https://www.ap-graduate.tsukuba.ac.jp/>

【資料目次】

1. 教育学学位プログラム(D)に関する概説資料・・・・・・・・・・ p. 1
2. 研究分野担当教員一覧・・・・・・・・・・ p. 4
3. 開設科目および履修について・・・・・・・・・・ p. 6
4. 博士課程の場合の標準履修モデル・・・・・・・・・・ p. 10
5. 博士（教育学）授与論文：1999（平成11）年度～2019（令和元）年度・・・ p. 12
6. 修了者等の就職先・・・・・・・・・・ p. 16

■教育学学位プログラム（博士後期課程）

授与する学位の名称	博士(教育学) [Doctor of Philosophy in Education]	
人材養成目的	社会の急激な変化のもと対応を迫られる教育の具体的課題と、地球的視野をもって解決されるべき教育の本質的課題のそれぞれについて、教育学の幅広い学問的知見を基盤としての確な研究方法をもって追究し、独創的な研究成果を国内外に向けて発信し、政策と実践の改革を国際的に先導することのできる教育学研究者ならびに高度専門職業人を養成することを目的とする。	
養成する人材像	・修了者は、国内外の教育系大学・学部・教育研究機関で教育学の教育研究に従事するとともに、各専門分野の学会活動をリードすることのできる人材である。また、国際学会や国際機関等において教育学研究の最新成果について積極的に発信し研究交流することができる人材である。 ・研究実績を生かして国内および海外における国・地方自治体・関係組織等の教育政策の策定・実施および学校教職員・教育行政・民間組織等の職能開発に対して貢献できる人材である。	
修了後の進路	修了後の進路は、国内外の教育系大学・学部および教育研究機関の研究者、国際的な機関における教育学研究者、開発途上国等における国際協力の中で日本の教育経験及び教育学の知見に基づいて貢献する者、あるいは民間組織のリーダーとしての高度専門職業人等である。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	基礎科目、専門基礎科目、専門科目、博士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	他研究室と共同の基礎科目、専門基礎科目、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	基礎科目、専門基礎科目、専門科目、学会発表、ポスター発表など
4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	他研究室と共同の基礎科目、専門基礎科目、大学院共通科目、TA・TF 経験、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	教育学演習、大学院共通科目（国際性養成科目群）、国際的な活動を伴う科目、国外での活動経験、外国人（留学生を含む）との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
6. 研究力：教育学分野における最新の専門知識に基づいて本質的な研究課題を設定して、自立して研究計画を遂行できる能力	① 教育学の先行研究を踏まえて、本質的な研究課題を設定できるか ② 設定した課題にふさわしい研究方法を用い、学術的な研究成果を生み出しているか	教育学演習、各研究法、博士論文中間研究発表会、学会発表など
7. 専門知識：教育学分野における先端のかつ高度な専門知識と運用能力	① 専攻する分野の教育学の専門知識に裏付けられた研究成果があるか ② 関連する教育諸科学の専門知識を積極的に吸収しようとする意欲があるか	教育学演習、各研究法、投稿形式論文発表会、博士論文中間研究発表会など
8. 倫理観：教育学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① 教育学の分野の研究者としてふさわしい倫理観と倫理的知識を有しているか ② 専攻する特定分野に関する倫理観と倫理的志知を有しているか	教育学演習、各研究法、投稿形式論文発表会など

9. 国際性：国際的な視野で教育課題を捉え、その解決策を国内外に発信できる能力	① 国内外の教育課題を的確に把握し、国際的な視野で研究課題を設定できるか ② 研究成果を国内外に積極的に発信しようとしているか	教育学演習、各研究法、国外の大学との交流活動、国際会議発表、英語論文など
学位論文に係る評価の基準		
1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、教育学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. 教育学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、学術論文として発表するのにふさわしい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、教育学分野の博士論文にふさわしい形式にまとめてあること。 なお、学位論文の審査を願い出ようとする者は、事前に学位プログラムにおける予備審査に合格しなければならない。審査委員は主に本学位プログラムの構成員からなるものとする。		
カリキュラム・ポリシー		
博士前期課程修了までに教育学の専門的知識を習得した上で進学してきた院生、修士学位をもって大学や小・中・高等学校等で教鞭をとりながら教育学研究に取り組んできた現職教員院生、教育行政や民間組織（企業、NPO 等）等で教育関係の業務を遂行しながら研究的関心を高めてきた社会人院生等に対して、専門分野の研究に必要な研究力量を高め、研究法を習熟させることをねらいとして教育課程を編成する。ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の修得を系統的かつ効果的におこなうため、授業科目を「共通基礎科目」、「共通選択科目」、「専門科目」によって構成して教育課程を編成する。		
教育課程の編成方針	・「共通基礎科目」により、教育基礎学および学校教育学の全領域にわたる教育学の教養を修得し、教育学研究の発展に対する貢献意欲を身につける。 ・「共通選択科目」により、共同研究の企画・推進に必要なリーダーシップ、海外研究者と学術的討議を円滑に行うためのコミュニケーション能力、適切な文献資料を探索して読解し的確に考察することのできる能力を身につける。 ・「専門科目」では、各自の研究テーマに対応した専門分野の教員から論文指導を受けることで、専門的知識を深め、研究倫理的問題への見識を養い、専門的学会等で研究成果を発表して討議するための様々な能力を身につける。 ・これらの課程履修および学外での研究活動等への参加を通じて、自立した研究者としての能力とともに、地球規模の教育課題を幅広い視野で捉え、その解決策方策を国際的視野で考察できる能力を身につける。	
学修の方法・プロセス	1 年次は共通基礎科目を履修するとともに、各自の研究テーマに応じた研究法の履修により、専門分野の論文指導を受ける。1 年次及び 2 年次においては、個別の論文指導と併行して、共通基礎科目及び共通選択科目の履修により、教育学の教養とその研究方法についても習得する。なお、社会人特別選抜による入学者には、フィールドワーク研究の演習を設け、その学習ニーズに対応する。1 年次の秋学期からは投稿形式論文発表会において、専門分野以外の教員からの指導も受ける形で論文の作成方法を学ぶ。2 年次後期の博士論文中間発表会において博士論文の構想を発表し、3 年次において研究指導委員会のもとで複数の教員から博士論文の指導を受ける。なお、特に教科教育学の領域では教科専門と教育学の統合が求められることから、他の学術院に設置される学位プログラムで開設される科目についても積極的に履修するよう指導する。	
学修成果の評価	・個別の科目において、各自の教育学の基礎理解、研究方法、論文の構想等の評価を行う。 ・投稿形式論文発表会では、投稿先の学会に合わせた指導と評価を行う。 ・博士論文中間発表会では、博士論文の構想について指導、評価を行う。 ・研究指導委員会では博士論文の構想、内容、水準等について指導、評価を行う。 ・予備審査会、学位論文審査会は公開で行い、適正な審査を行う。	
アドミッション・ポリシー		
求める人材	教育の現実的問題と本質的な問題に深い関心を抱き、博士前期課程において教育学の基礎的知識並びに研究方法の基礎を習得し、明確な研究課題をもって、主体的かつ意欲的に研究する姿勢のある人材を求める。教育学の学問的知見に基づいて、幅広い視野と深い専門的知識をもって様々な教育課題を解決しようとして国内外の専門学会で活躍できる素養をもった人材を求める。	

入学者選抜方針	入試委員会による管轄の下、年間２回（10月期・2月期）に分けて選抜を行う。選抜方法は、修士論文（または修士論文に代わる論文）の内容についての審査、及び本学位プログラムでの研究計画に基づく口述試験による。また、募集人員を定めて社会人特別選抜を実施する。
---------	---

令和 4 年度 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 教員研究分野一覧（博士後期課程）

〈教育学学位プログラム〉

教 員 名	研 究 内 容([]は専門研究分野)
○平 井 悠 介	[教育哲学] 現代英米圏の教育哲学／教育における平等論とシティズンシップ教育論
○平 田 諭 治	[日本教育史] 近現代日本の教育とナショナリズム／オリエンタリズム／コロニアリズム
○上 田 孝 典	[生涯学習・社会教育学] 現代アジアの社会教育・生涯学習比較研究、近代中国教育史
徳 永 智 子	[教育社会学]授業担当 移民と教育、マイノリティの教育支援、越境と多文化共生、エスノグラフィー
○藤 井 穂 高	[教育制度学] 教育制度論、フランスを中心とした教育制度改革
○大 谷 奨	[教育計画論] 教育制度整備過程の研究、学校設置者論
タスタンベコワ・クアニシ	[比較・国際教育学]授業担当 言語教育政策、移民教育政策、シティズンシップ教育、旧ソ連(ロシア、中央アジア等)教育政策
川 口 純	[比較・国際教育学]授業担当 国際教育協力論、インクルーシブ教育、途上国の教員政策
菊 地 か お り	[比較・国際教育学]授業担当 グローバル化と教育改革、イギリスの教育政策、シティズンシップ教育、移民・外国人の教育、国際理解教育
○浜 田 博 文	[学校経営学] 学校経営の日米比較研究、校長職の研究、教師教育の研究、学校改善の研究、アメリカ学校経営の研究
○佐 藤 博 志	[学校経営学] オーストラリアの学校経営の研究、イギリスの学校経営の研究、学校変革の理論と実践の研究
○田 中 正 弘	[高等教育論] 高等教育の内部質保証、イギリス高等教育、大学進学問題、専門職大学院
○樋 口 直 宏	[教育方法学] 学習指導論、授業分析、教育方法の実践的研究、思考教授論、小中一貫教育
○田 中 マ リ ア	[道徳教育学] 道徳教育論、ルソーの教育思想
○藤 田 晃 之	[キャリア教育学] キャリア教育、進路指導等のキャリア形成支援に関する研究、日・米・デンマークの比較研究
京 免 徹 雄	[キャリア教育学]授業担当 特別活動、生徒指導、フランスの比較研究
○井 田 仁 康	[社会科教育学] ニュージーランドをはじめ各国の社会科・地理教育と我が国の社会科・地理教育との比較研究、地理学習における教材開発に関する研究
○唐 木 清 志	[社会科教育学] 公民教育、アメリカ社会科の研究、サービス・ラーニング
○國 分 麻 里	[社会科教育学] 歴史教育論、近現代朝鮮教育史

○長 田 友 紀	[人文科教育学] 国語教育、コミュニケーション教育、音声言語教育の研究
名 畑 目 真 吾	[人文科教育学]授業担当 英語教育、リーディング、小学校英語、テキスト分析
○清 水 美 憲	[数学教育学] 数学科授業の国際比較、数学的思考の認知的研究、数学教育評価論、数学的リテラシー
○磯 田 正 美	[数学教育学] 数学的活動・数理化・数学的思考、数学史・テクノロジー利用に関する研究、教育課程・教科書の国際共同開発研究、学習指導と評価の研究
蒔 苗 直 道	[数学教育学]授業担当 数学教育史
山 本 容 子	[理科教育学]授業担当 理科教育、生物教育、環境教育論
遠 藤 優 介	[理科教育学]授業担当 理科教育基礎論、ドイツ科学教育論、化学教育

- ・ 出願にあたって志願者は必ず志望する専門研究領域の教員と事前に連絡を取ってください。
- ・ ○印は研究指導教員です。その中から、指導教員を指名することができます。授業担当教員を研究指導教員として指名することはできませんが、研究について助言を求めることはできます。

基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	授業概要
OBTA001	教育学特論Ⅰ	2	1.0	1	教育学研究の課題と方法について、担当教員の専門領域を中心に、検討する。その上で、担当教員の指導の下で、博士論文の構想を作成する。併せて専門領域の最新の研究動向も検討する。なお、博士論文構想発表会で、その構想を発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。
OBTA002	教育学特論Ⅱ	2	1.0	2	教育学の研究課題と方法について、論文の作成を通じて、検討する。本特論では、特に専門学会に投稿できる水準の論文の作成方法を学ぶ。そのために先行研究の検討、論文の課題の設定、研究課題に応じた方法の選択、論文の構成と一貫性などについて検討する。なお、作成した論文は、投稿形式論文発表会において発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。

専門基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	授業概要
OBTA101	教育学演習Ⅰ	2	1.0	2	担当教員の指導の下で、博士論文の構想と具体的な内容について検討を行う。構想については、研究の目的と方法、論文の構成、先行研究の検討、論文の概要、研究の成果について検討する。その概要については博士論文中間発表会で発表し、他の教員からも指導助言を受ける。
OBTA102	教育学演習Ⅱ	2	1.0	2	国際学会での発表を行えるような研究者としての知識と技能を養うことを目的とする。そのために、英文による論文作成のための基本的知識と技能の習得を図る。その成果として、海外での研究発表を行うこととする。
OBTA103	フィールドワーク研究	2	1.0	2	社会人の学生を対象に、現場でのフィールドワークの研究方法について修得することを狙いとする。そのために、学校、大学、職場等での、フィールドワークの意義、方法、具体的な手順等について、担当教員の専門領域に適した内容を習得する。

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	授業概要
OBTA201	教育哲学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	教育哲学の思考法を理解するために、教育哲学における基本文献を講読し、研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を現代的課題の探究へと応用する論文を作成するための研究指導も併せて行う。講読する基本文献は、John Dewey, Democracy and Education (1916) とし、外国語文献を理解するための研究方法を理解するとともに、教育目的を内在的にとらえるデュエイ思想に教育哲学的思考の一つのあり方を理解することを目指す。
OBTA202	教育哲学研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	教育哲学の思考法を理解、深化するために、教育哲学と関連する諸分野(倫理学、政治=社会哲学等)における基本文献を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を、教育哲学へと接合させる論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、John Rawls, Theory of Justice (1971) とし、現代政治哲学の研究課題、および論争点を理解するとともに、教育の課題との関連性について理解、考察を深めることを目指す。
OBTA203	教育哲学研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	教育哲学の思考法を理解、深化させるために、近代教育学の探究の外に置かれた家庭をめぐる課題を探究する教育哲学研究を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を応用した論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、Harry Brighouse and Adam Swift, Family Values (2014) とし、現代教育哲学の研究課題、および論争点を理解するとともに、国家と家庭の対立の調停という教育哲学的課題の探究を深めることを目指す。
OBTA211	高等教育論研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	質的研究法の基礎を学び、観察や面接などの実施方法を修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータを用いて現象の説明を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、質的研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。
OBTA212	高等教育論研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	混合研究法の基礎を学び、質的調査と量的調査をつなぐ研究アプローチを修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わる質的・量的データを収集する。それらのデータを用いて仮説の検証を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、混合研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。
OBTA213	高等教育論研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	比較教育学の研究方法を援用し、外国の大学を対象とする研究方法の基礎を学ぶ。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータの分析結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、比較教育学の研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。
OBTA221	日本教育史研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	日本教育史における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究課題を設定し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロニアリズムとの結びつきを課題化する。
OBTA222	日本教育史研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	日本教育史における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究課題を把握し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロニアリズムとの結びつきを調査する。
OBTA223	日本教育史研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	日本教育史における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究課題を構想し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロニアリズムとの結びつきを方法化する。
OBTA231	生涯学習・社会教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	生涯学習・社会教育学に関する研究について、基本文献や最新の学術文献を講読するとともに、関連領域を含めた歴史、思想、法制度、政策、行政などについて理解を深め、研究の基盤となる知見を習得する。そのうえで、それぞれの研究テーマに関わる先行研究について発表しあい、研究の到達点や残された課題、新しい研究方法や研究の視点などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。
OBTA232	生涯学習・社会教育学研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	生涯学習・社会教育学に関する研究課題について、国内外の研究動向を踏まえながら、各自の課題意識や研究関心を探求し、研究テーマの検討を行う。そのうえで、それぞれの研究テーマについて発表しあい、問題の所在やテーマの妥当性、研究の意義などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。
OBTA233	生涯学習・社会教育学研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	生涯学習・社会教育学に関する研究方法について、国内外の先行研究を踏まえながら、各自の研究テーマに即した方法論を検討する。そのうえで、それぞれの研究方法について発表しあい、課題と方法の整合性や理論的枠組みの考察、調査方法の正確性、仮説の設定と結論を導く論理構成などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。
OBTA241	教育制度学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	教育制度学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各自の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。
OBTA242	教育制度学研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	教育制度学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各自の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。
OBTA243	教育制度学研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	教育制度学における先行研究について検討する。研究課題を設定する際の先行研究の踏まえ方について適切な先行研究を検討する。そのうえで、各自の研究の枠組みについて発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。
OBTA251	学校経営学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	学校経営学についての基本文献を講読するとともに、戦後の学校経営に関する教育政策の歴史的展開をたどりながら、研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各自の研究関心について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の教育政策および研究の進展について討議し、学校経営学の最新の研究動向を把握する。これらのことを通して、各自の論文作成をおこなうための研究課題を明確にして、論文作成のために必要な研究能力を育てる。
OBTA252	学校経営学研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各自の研究主題と研究課題について発表しあい、それに関わる最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究方法の在り方を把握する。これらのことを通して、各自の論文が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討して、論文作成のために必要な研究能力を育てる。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	授業概要
OBTA253	学校経営学研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究を推進するための最先端の基礎概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究主題と研究課題、ならびに研究方法の具体について発表しあい、同時に最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究課題と研究方法の在り方を把握する。これらを通して、各受講生が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討するとともに、論文全体の構成を吟味し、論文作成のための総合的な能力を育てる。
OBTA261	比較・国際教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	比較・国際教育学における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究の系譜を学ぶとともに教育理念・思想、教育制度・政策、教育内容と方法などを研究対象とするさいに、比較・国際教育学の視座から設定できる研究課題の枠組みに焦点を当てて関連文献の検討を行う。さらに、比較教育学研究における研究者のアイデンティティとポジショナリティ形成に焦点を当てて、研究倫理に関する指導を行う。
OBTA262	比較・国際教育学研究法ⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	比較・国際教育学における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。特に、比較教育学研究の歴史的展開において各時代における研究動向を関連文献の検討を通して整理する。また、研究対象別に各時代、各地域の政治・経済・社会体制の違いによる研究動向の特徴を捉える。冷戦の終焉、グローバル化と新自由主義の進展が各国の教育に与える影響を分析する研究の標準化に関する批判的検討を行い、研究の独自性、学術的価値について議論する。
OBTA263	比較・国際教育学研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	比較・国際教育学における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究における質的調査と量的調査の特徴を把握し、研究対象の地域的、政治・経済・社会的特徴に対応した研究方法について関連文献の検討を通して議論する。研究対象に関わる一次資料の入手に必要な外国語運用能力、エスノグラフィー、ライフヒストリー、ライフストーリー、参与観察などの方法に求められる研究者ネットワークの課題について議論する。
OBTA271	教育社会学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	教育社会学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通じて論文作成のための研究指導を行う。
OBTA272	教育社会学研究法ⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	教育社会学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通じて論文作成のための研究指導を行う。
OBTA273	教育社会学研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	教育社会学における国際的な研究課題とそのための研究方法について検討する。そのために適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通じて論文作成のための研究指導を行う。
OBTA301	カリキュラム研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	「教育課程」や「学習指導要領」といった基本的な用語に関し、大学の学部段階や教職課程の基礎知識の保有を前提としつつ、今日のカリキュラム研究における多様な動向を理解することを旨とする。理論面では、1960年代「隠れたカリキュラム」から1970年代「再概念化(主義)」以降に展開した、多様な「カリキュラム」概念の動向を概観する。実践面では、主に近年の研究開発学校や教育課程特例校などを検討する予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。
OBTA302	カリキュラム研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	ここ20年ほどの「カリキュラム(・)マネジメント」に関する諸文献や資料を、批判的に講読する。いわゆる「Plan-Do-Check-Act(ion)サイクル」と並び、現在政策的に用いられる「カリキュラム・マネジメント」は、研究面の用法とは明らかに異質である。この科目では、「カリキュラム(・)マネジメント」の淵源を1970年前後の欧州SBCD(School-Based Curriculum Development)論の動向に求めつつ、関連する教育課程経営などの諸論考を検討対象とする予定である。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。
OBTA303	カリキュラム研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	この科目では、カリキュラム研究的方法的な側面を扱う。教育学を含む社会科学の研究方法は多種多様であり、カリキュラム研究もその例外ではない。すなわち、歴史や哲学的なアプローチ、国際比較、観察や聴き取りといった質的調査、質問紙調査に代表される量的調査、特徴的な実践事例の検討など、多面的かつ複合的に研究方法を組み合わせる傾向がみられる。この科目では、特に研究方法に注目して、各種ジャーナル等の学術論文を講読する。基本的に、受講者による発表と討議を中心に進める。
OBTA311	教育方法学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	学習指導理論と学習過程を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通して、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、学習指導理論と学習過程に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。
OBTA312	教育方法学研究法ⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	教授スキルと指導効果を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通して、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教師効果と指導効果に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。
OBTA313	教育方法学研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	教師効果と学習意欲を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通して、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教師効果と学習意欲に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討論する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。
OBTA321	道德教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	道德教育学研究の基礎的事項をおさえるために、道德教育に関する用語や位置づけ、特質などについて、大学の学部段階や教職課程の基礎知識を確認するとともに、これまで道德教育学分野において積み重ねられてきた議論について要点をおさえる。具体的には受講者とともに道德教育に関する基本文献や論争史などを輪読し、道德教育学研究の基礎的事項について理解を深めつつ、適宜、受講者のとくに関心のある課題を重点的に討議する。これらを通して、道德教育学研究に必要な基礎的知識・能力等を育てる。
OBTA322	道德教育学研究法ⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	道德教育学に関する学術論文を収集整理し、道德教育学研究において、これまでいかなる研究課題が検討されてきたのか把握する。また、それらを読解する中で、道德教育学研究を掘り下げていく際の視点や論点などについての勘所をつかむ。さらに、それら読解してきた学術論文をはじめ、道德教育の先行研究群に対して、受講者のとくに関心のある課題について各々さらに掘り下げて、討論する。これらを通して、道德教育学分野における論文作成にかかわる研究能力の育成を図る。
OBTA323	道德教育学研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	道德教育学研究分野における論文執筆技能の向上を目的としつつ、受講者が研究能力を培うための実践的、総合的研究指導を行う。具体的には各受講生がそれぞれ、自己の研究関心や研究課題を道德教育学研究の系譜に位置づけ直し、最新の先行研究の動向をおさえた上で、その研究主題、課題設定、研究手法等について掘り下げていく。受講者は順番に自身の研究構想、論文執筆計画について発表し合い、相互に検証や討議を重ねながら、その精度を高めていく。
OBTA331	キャリア教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	キャリア教育の目的について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、戦後日本の学校教育における職業指導・進路指導・職業教育、及び、アメリカを中心に理論化がなされてきたvocational guidance, career guidance, career education, career and technical education等との比較検討を、主要な先行研究を対象として分析しつつ議論することを中核とする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通じて、受講者の研究能力の向上を図る。
OBTA332	キャリア教育学研究法ⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	キャリア教育の内容について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、小学校・中学校・高等学校における児童生徒の発達段階に即して育成すべき資質・能力とそれらにふさわしい指導内容の検討(国内外の先行研究の分析)を中核に据えつつ、資質・能力をめぐるベンチマーク(到達目標)の設定や学習状況のモニタリング、学習成果の評価の在り方も視野に収めて議論する。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通じて、受講者の研究能力の向上を図る。
OBTA333	キャリア教育学研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	キャリア教育の方法について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方を扱う。前者に関しては特に教科・科目を通じた実践の在り方、後者については予防・開発的な支援・指導の在り方に焦点をあてながら、国内外の関連研究の分析を行い、議論する。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通じて、受講者の研究能力の向上を図る。
OBTA341	社会科教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	社会科教育の論文作成の基礎について考察する。論文の目的の設定、論文の枠組みについて講義や討論を通して考察し、論文の基礎についての理解と考察を深める。
OBTA342	社会科教育学研究法ⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	社会科教育の先行研究となる論文が、どのように目的を設定し、論文の枠組みを立てているか分析し、その結果を共有し批判的考察をすることで論文を構成する能力を育む。
OBTA343	社会科教育学研究法ⅠⅠⅠ	2	3.0	1 - 3	社会科教育学の目的、方法、内容を踏まえて、どのようにオリジナリティを持たせた論文を作成できるのか、自分の研究成果を論文として書きながら考察し、論文作成の実践力を身につける。
OBTA351	人文科教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	現時点における言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)研究の範囲とそれぞれの水準を把握することをめざして、主たるレビューに依拠しつつ関連分野における先行研究の講読、討議を行う。次いで受講者が各自の関心に即した領域についてテーマを設定し、自らの先行研究の収集・整理によって行ったレビューを行い、他の参加者との討論を通してレビューの内容を洗練させるとともに自らの研究課題を鮮明にすることを目指す。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	授業概要
OBTA352	人文科教育学研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)の実態に即してその問題を明らかにするとともに、それぞれの問題の構造を理解することを目指す。そのために国際比較、また主要なトピックにかかわって歴史的な視点に基づく基本的な文献や原資料を用いつつ、教育課程における言語教育の位置づけ、教材選択の視点、指導方法の選択、児童生徒の学習の実態、そして評価の在り方など、時宜に応じたテーマに関して意見交換・討論を行う。
OBTA353	人文科教育学研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)に関する調査研究に関して、代表的な研究や最新の研究を読んだり各自の調査研究を報告し含ったりすることで、実験的調査や観察調査・フィールドワークなどの手法を洗練させることをねらう。第1回から第5回は基礎的・代表的な文献を批判的に検討する。その際、国語教育だけでなく日本語教育や英語教育などの研究もみることによって他領域の研究目的や手法との共通性や差異についても考え研究手法の幅を広げていく。第6回から第10回は、各自の調査研究について報告を行いながら討究する。その際、当該調査手法の適否だけでなく、他の視点からの分析や別手法・分析が行えないかなどについても検討することで、さらなる調査や分析に発展させる。
OBTA361	数学教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	数学教育学の内外の文献の検討を通して研究方法論の基礎を学ぶとともに、具体的な実証的研究の事例を批判的に検討する。特に、数学学習、数学的問題解決、数学における理解等に関する実証的研究の進展を、各時代における他の研究分野からの影響と研究パラダイムの進展に注意しながら検討するとともに、その根底にある研究方法論の展開を時系列に沿って検討する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題(リサーチエスション)の設定のあり方と研究方法論を学ぶ。
OBTA362	数学教育学研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	数学教育におけるカリキュラム改革について、海外の事例に関する文献講読を通して検討し、数学カリキュラムを比較文化的観点を加味して検討する。また、数学カリキュラムの構成原理、学問領域としての数学と学校数学との関係のあり方を規範的に考察する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題の意義とその具体化のあり方、その研究目的に基づく適切な研究方法の考察を行う。
OBTA363	数学教育学研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	数学教育学における理論的研究・歴史研究を中心に内外の文献を検討し、研究方法論について学ぶとともに、具体的な研究事例を取り上げ批判的に検討する。特に、数学教育研究が数学教育の教育課程や実践の改善に対して果たす役割を考察し、各自の研究目的からみた数学教育改善への示唆を導出する。この過程で、各自の研究課題に引きつけて、数学教育学の特質とその意義を考察する。
OBTA371	理科教育学研究法Ⅰ	2	3.0	1 - 3	理科教育学の基本的テーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での基礎を形成することを目指す。内外の重要論文・著書を読み、その研究方法と着想について論究する。ここでは、理科教育・科学教育の基礎研究について、特に、理科教育研究の問いのあり方、探究的な科目としての「理科」のあり方、女子の理科教育、科学教育改革の動向等を取り上げ、そこでの研究方法論の妥当性を探る。
OBTA372	理科教育学研究法Ⅱ	2	3.0	1 - 3	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での実践的力量を形成することを目指す。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教育の内容・カリキュラム研究の方法論について検討する。具体的には、教科書分析、教材分析、教育内容としてのNOS(Nature of Science)論、アナロジー論等の研究方法を扱う。
OBTA373	理科教育学研究法Ⅲ	2	3.0	1 - 3	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での高度な実践的力量を形成することを目指す。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教授学習研究の研究方法論について検討する。具体的な事例としては、科学概念変容研究、協同学習と社会的構成論、アーギュメンテーション論等の研究方法を扱う。

履修方法・修了要件

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士後期課程

教育学学位プログラム(D)

科目区分	条件	科目名等	修得単位数
基礎科目	必修	教育学特論Ⅰ(1単位) 教育学特論Ⅱ(1単位)	2
専門基礎科目	選択必修	教育学演習Ⅰ(1単位) 教育学演習Ⅱ(1単位) フィールドワーク研究(1単位)	1
専門科目	選択必修	研究法Ⅰ(3単位) 研究法Ⅱ(3単位) 研究法Ⅲ(3単位)	3
修了単位数			6

(修了要件)

・基礎科目を2単位、専門基礎科目を1単位以上、専門科目から専門研究領域の研究法Ⅰ～Ⅲ3単位を履修する。

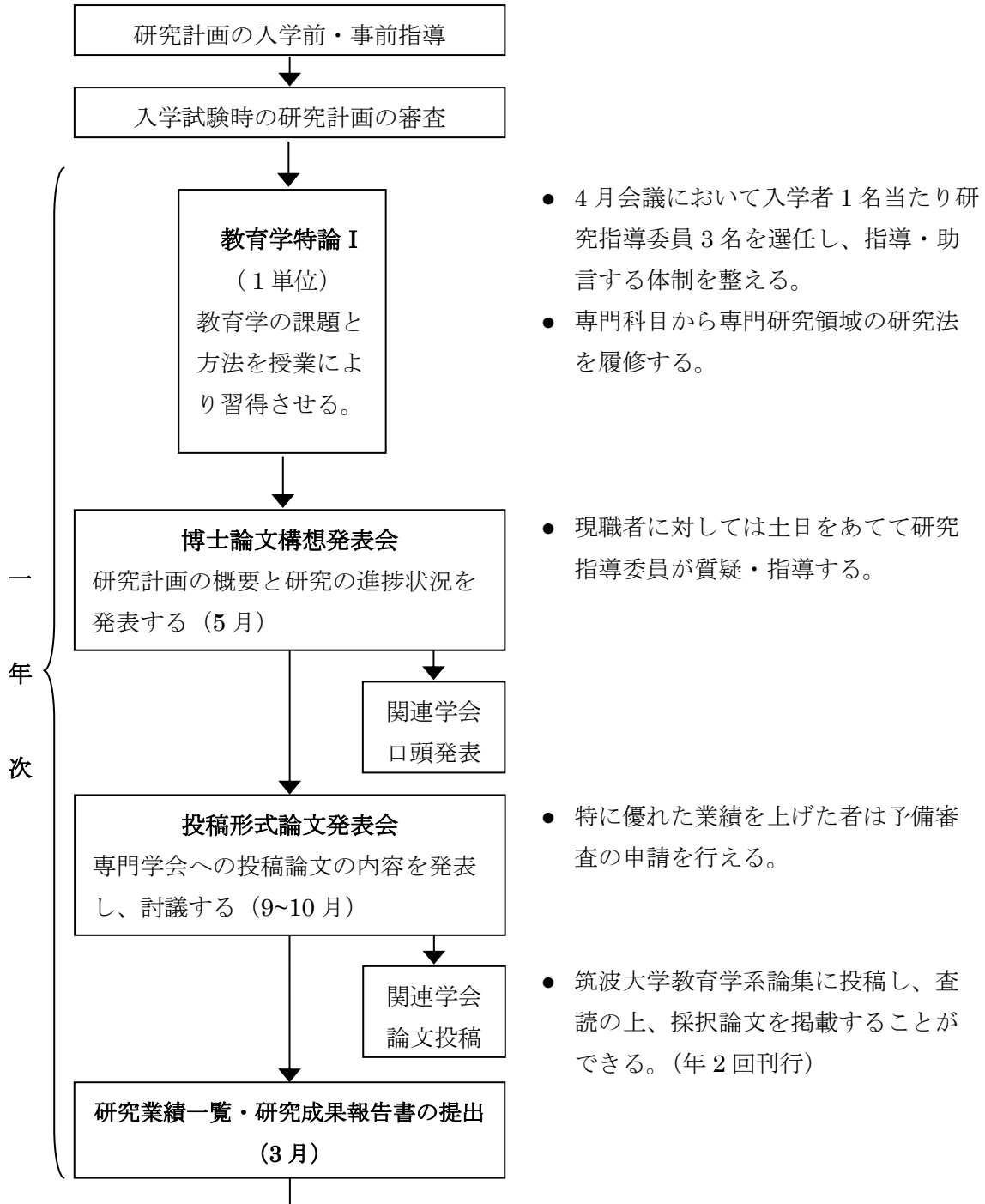
・3年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については1年(修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。

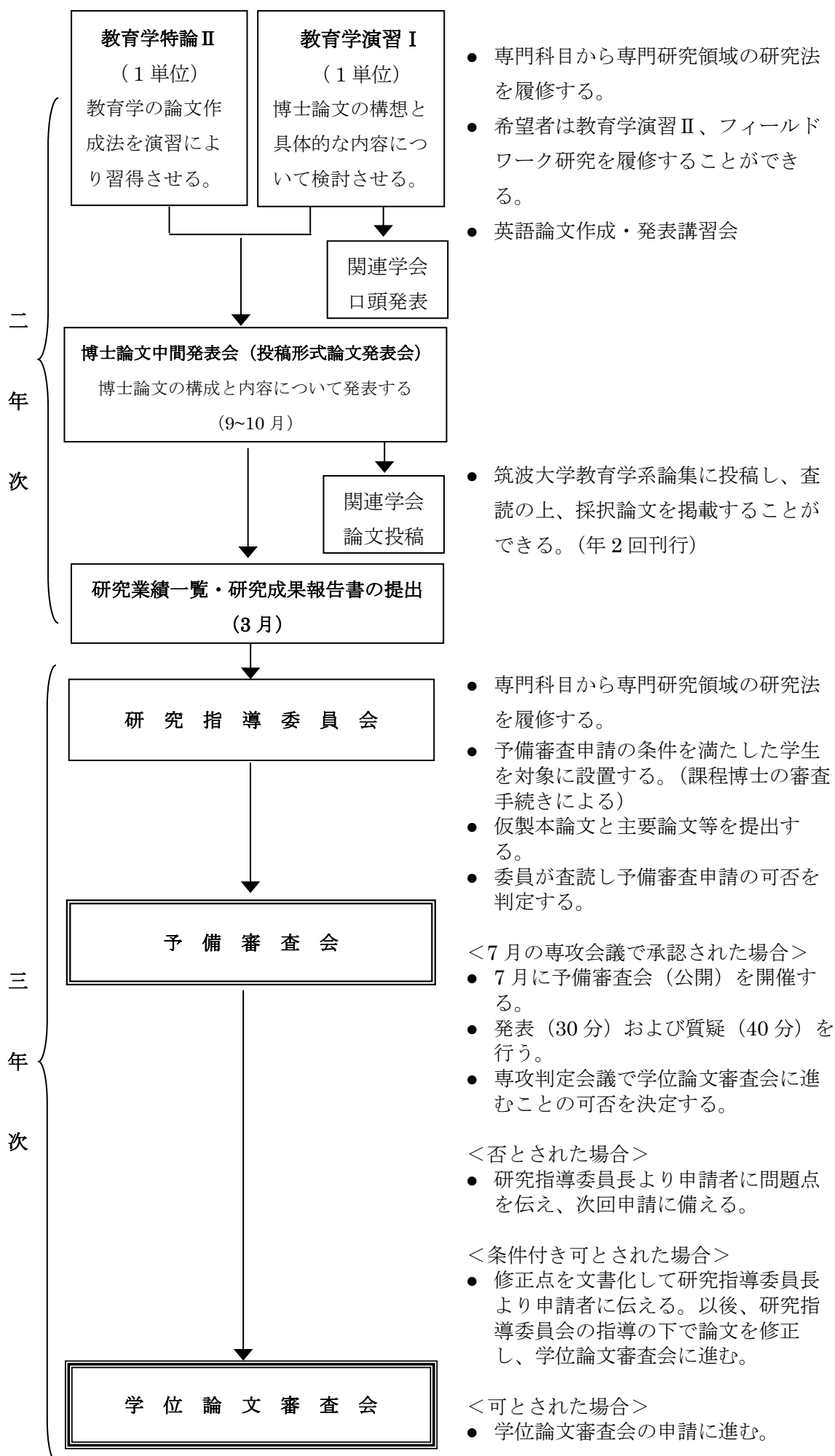
・教育会議において教育上有益と認められる場合には、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

人間総合科学研究群 教育学学位プログラム（後期）

令和 3 年 6 月 8 日（一部改訂）

課程博士の場合の標準的履修モデル





教育学研究科教育基礎学専攻、人間総合科学研究科一貫制博士課程教育学専攻、
人間総合科学研究科博士後期課程教育基礎学専攻（旧課程）

博士（教育学）授与論文

（1999（平成11）年度～2020（令和元）年度）

題目	年度	専門研究領域
海軍飛行予科練習生の教育史的研究 —軍関係教育機関としての制度的位置とその戦後の問題—近現代における青年団の結合原理をめぐる言説とその実態	2019	日本教育史
—青年団論の分析と地域青年団をめぐる社会教育史的研究—	2018	生涯学習・社会教育学
現代アメリカの貧困地域における市民性教育改革の研究 —教室・学校・地域の連関構造の重要性に着目して—	2018	学校経営学
中国における少数民族文化活動の展開に関する研究 —モンゴル族にみる民族文化と国民統合—	2018	生涯学習・社会教育学
ロシア連邦における外国籍の子どもの教育保障の特質と課題 —ポストソ連空間の生成・再編と移民政策の葛藤の視点から—	2018	比較・国際教育学
ベトナム・トゥアティエンフエ省の学校保健における教育と保健医療の連携	2017	教育行政学
中山間地域共同体の継承と変革に関わる社会教育的研究 —山形県最上郡金山町の内発的発展に着目して—	2016	生涯学習・社会教育学
中国における外国人の子どもの教育政策に関する研究 —公立小中学校の受け入れ制度に焦点を当てて—	2015	比較・国際教育学
イングランドにおけるシティズンシップ教育政策の展開に関する研究—カリキュラム改革にみる国民意識の形成に着目して—	2015	比較・国際教育学
米国カリフォルニア州における学級規模縮小プログラムの成立・展開過程の研究	2013	教育制度学
現代中国の「大学における教員養成」への改革と教員養成教育の変化に関する研究—山東省の2つの大学についての事例分析—	2013	学校経営学
住民と市町村行政機関の学習を基盤とした協働論に関する研究 —学校統廃合の事例分析を通して—	2013	生涯学習・社会教育学
長時間労働に対する解決主体の形成に関する社会教育学的研究 —社会運動を通じた過労死遺族の変容に着目して—	2012	生涯学習・社会教育学
戦前北海道における中等教育制度整備政策の研究 —庁立学校の設置過程と北海道会	2012	教育制度学
戦後日本における国際理解教育政策の展開に関する研究	2012	比較・国際教育学
国際教育開発の正当化根拠に関する理論的研究	2011	比較・国際教育学
カザフスタンの言語教育政策に関する研究	2011	比較・国際教育学

—母語教育保障の理念と実態に焦点を当てて—		
現代日本における地域博物館の理論と展開 —棚橋源太郎の博物館構想の解明を手がかりにして—	2009	生涯学習・社会教育学
生涯学習関連施設の学習プログラム編成過程に関する基礎的研究 —学習プログラムの類型と規定要因の解明—	2008	生涯学習・社会教育学
自律的学校経営におけるアカウンタビリティに関する研究 —オーストラリア・ビクトリア州の学校経営政策の分析を通して—	2008	学校経営学
近代日本における教員統制に関する研究 —千葉県学務当局の教育施策の展開過程からみた	2006	日本教育史
フェルディナン・ビュイッソンの教育思想の形成に関する研究 —第三共和政初期教育改革史研究の一環として—	2006	外国教育史
ネパール・王政復古期における国民教育制度創設過程の研究	2006	教育制度学
アメリカにおける「学校を基礎単位とした教育経営 (School-based management)」施策の展開と校長の新たな役割に関する研究 —「学校の自律性」確立における校長の役割—	2006	学校経営学
J. H. カンペ教育思想の研究 —啓蒙主義教育思想再検討の一環として—	2006	外国教育史
F. Ch. エーティンガー・人間形成論の研究 —教育的関心の収束過程に注目して—	2005	外国教育史
戦後教育改革期における道德教育問題の史的展開に関する研究	2004	日本教育史
タイ東北における国民形成の研究—国民文化の習得メカニズム	2004	教育行政学
アメリカの教育開発援助の規定要因に関する研究	2004	比較・国際教育学
教師の葛藤対処様式に関する研究	2003	学校経営学
日本義務教育制度成立史の研究 —長野県における製糸工場特別教育を素材にして—	2002	日本教育史
アメリカ「新教育」成立の思想的基底に関する研究 —W. ジェイムズおよびG. S. ホールに即して—	2002	外国教育史
筋肉的キリスト教の思想と近代スポーツマンシップ —トーマス・ヒューズを中心に—	2001	外国教育史
近代日本農村における農民の教育と学習 —農事改良と農事講習会を通して—	2000	生涯学習・社会教育学
ハートリブ・サークルの知の連関における教育思想の形成 —デカルト哲学との邂逅を中心に—	2000	外国教育史
戦後日本における大学教育の展開 —学部・研究科の種類の变化を中心に—	1999	教育制度学
クリシュナムルティ・スクールの民族誌的研究 —インド農村部の私立学校における知の構造—	1999	学校経営学

学校教育学専攻 博士学位論文一覧

(1) 課程博士

題目	年度	専門研究領域
戦前中国における日本語教育	1993	カリキュラム
カリキュラム開発における教師の役割とその遂行過程に関する研究	1999	カリキュラム
台湾の高等学校における日本語教育のカリキュラム開発に関する研究	2000	カリキュラム
カリキュラム評価におけるゴール・フリー評価論の応用に関する研究	2001	カリキュラム
「総合学科」高校生の選択制カリキュラムへの適応過程に関する研究	2002	カリキュラム
スウェーデンの義務教育における「共生」＜Samlevnad＞のカリキュラムに関する研究	2012	カリキュラム
人間形成における＜エゴイズム＞とその克服過程に関する研究	1992	道德教育学
ルソーの教育思想に関する研究—宗教を基盤に据えた人間形成論に着目して—	2006	道德教育学
中国の基礎教育課程改革の転換期における道德教育の変容—「主体性」の育成に着目して—	2016	道德教育学
ゴーチエにおける芸術教育思想の特質—人間形成論的側面に着目して—	2019	道德教育学
児童生徒の学習メディア利用に対する「先有知覚」に関する研究	1992	教育工学
WWW英語資源を用いた外国語テキストのオーセンティシティに関する研究	2001	教育工学
Effective Media-utility in Learning	2001	教育工学
The Metamorphism from Physical to Psychological Distance in Distance Education	2002	教育工学
学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究	2005	教育工学
1970年代以降のドイツにおける改革教育的な学校改革と授業実践—学校と生活の接続問題をめぐる授業の構成理論—	2019	教育方法学
日本の社会科における消費者教育に関する研究—「消費者主義」に基づく消費者意思決定学習の構想—	1993	社会科教育学
コリンウッド歴史哲学に基づく「追体験的歴史学習」理論の構成	1997	社会科教育学
社会科における役割体験学習論の構想	1998	社会科教育学
昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究—「総合郷土研究」編纂の師範学校を事例として—	1999	社会科教育学
A Modification on the Curriculum Development of Myanmar's Geography Education: Focusing on Japan and Myanmar's Junior High School Level(ミャンマーの地理教育に関するカリキュラム開発研究—日本とミャンマーの中学校レベルを中心に—)	2000	社会科教育学
Economic Knowledge, Skills, and Attitudes of High School Students : Comparative Study between Myanmar and Japan(高校生の経済的知識、技能、態度に関する研究：日本とミャンマーの比較を通して)	2001	社会科教育学
植民地期朝鮮の普通学校における「朝鮮事歴」の研究—郷土史教授の視点から—	2008	社会科教育学
「地理的探求に基づく学習」を促す地理カリキュラムの構成に関する研究—米国・英国・豪州の比較を中心に—	2010	社会科教育学
米国「国際教育」の構造に関する研究—社会運動論的分析視間を用いて—	2012	社会科教育学
景観の意味づけにおける地理的思考に関する研究	2012	社会科教育学
長野県師範学校男子部附属小学校における社会科学学習指導の確立過程に関する研究—「児童研究」の役割に焦点を当てて—	2016	社会科教育学
小学校社会科における経済的思考の育成—素朴理論から科学的理論へ—	2016	社会科教育学
日本語の会話教育におけるコミュニケーション方略指導の研究—韓国人日本語学習者を対象として—	2008	人文科教育学
「ピア・グループ」によるメディア・リテラシー学習の支援に関する研究	2008	人文科教育学
小砂丘忠義の綴方教育における基本構造と思想	2012	人文科教育学
中学生の書く行為に着目した国語科における読者反応の支援	2015	人文科教育学
小学校における言語教育としての二元的書字教育論の意義	2016	人文科教育学
旧制中学校国語科における文法と作文との関連	2020	人文科教育学
中国語文科におけるジャンルの研究—機能の観点からみた文章表現指導の検討—	2020	人文科教育学
数学教育におけるProcess-oriented learningの研究	1987	数学教育学
学校数学における文字式の学習に関する研究	1989	数学教育学
昭和10年代に見る算数科の成立過程に関する研究	1994	数学教育学
学校数学における証明に関する研究：証明に至る段階に説明の水準を設定することを通して	1995	数学教育学
学校数学における図形概念形成に関する研究：図形概念の包摂関係を視点として	1998	数学教育学
Students' Emotional Experience during Mathematical Problem Solving	2000	数学教育学
角に関する学習上の困難点の特定とその解消の方法—学校数学における角の学習指導の改善に向けて—	2011	数学教育学
数学的探求における操作的証明の活用促進に関する研究	2012	数学教育学
学校数学における数学的モデル化能力の育成に関する研究—初等教育段階に焦点を当てて—	2016	数学教育学
韓国の中学校化学カリキュラムに関する研究	1993	理科教育学
アメリカのBSCSカリキュラムの変遷過程の研究—STSカリキュラムにおける科学的リテラシー概念を基礎にして—	1996	理科教育学
生物教育における環境倫理の視点を導入した環境教育の研究—ディープ・エコロジーの視点を中心として—	2013	理科教育学

ドイツにおける科学教育改革に関する研究 ―コンピテンシー指向の化学教育を中心として―	2016	理科教育学
--	------	-------

(2)論文博士

題目	年度	専門研究領域
H. C. マッコーンの教科外活動理論におけるガイダンスに関する研究	1999	カリキュラム
学校音楽教育における「カリキュラム経験」の構成過程に関する実証的研究	2019	カリキュラム
アメリカにおけるヘルバルト主義教授理論の受容と展開	1983	教育方法学
中国における幼稚園教育の導入と展開～清朝末期から民国期まで～	1991	教育方法学
W. クラフキの教授学構想に基づく「二面的開示」に関する研究	1992	教育方法学
教育における非言語コミュニケーションの研究	1994	教育方法学
「エスノ・認知的パラダイム」による教師効果研究	1995	教育方法学
Peirce記号論によるVisual記号の概念構成とその教育的意義	2001	教育方法学
ドイツにおける「教育的関係」論の展開	2001	教育方法学
批判的思考指導論に関する研究―アメリカにおける思考技能指導の方法と日本の授業実践への適用―	2012	教育方法学
芸術教育の授業構成論に関する研究― デューイの芸術哲学を軸とした理論と実践	2016	教育方法学
ペスタロッチの教育思想における宗教的基礎―その形成と展開	1999	道德教育学
シュタイナーの人間形成論に関する研究―特に道德教育に着目して	2006	道德教育学
ジャスト・コミュニティ・アプローチによる道德教育の拡充に関する研究―コールバークとその後継の理論と実践の展開に着目して―	2019	道德教育学
理想主義・現実主義および行為主義・人格主義の相補軸に基づく道德教育の方法原理―ディルタイの相対化の射程を克服する相補化の方法論―	2019	道德教育学
アメリカのハイスクールにおける職業教育改革の展開と「職業教育」準備プログラムの開発に関する研究―南部地域教育連盟のHigh Schools That Workを事例として―	2019	キャリア教育学
義民伝承の研究	1984	社会科教育学
柳田国男における教育思想形成と社会科教育論の展開	1996	社会科教育学
現代における政治教育の研究	1999	社会科教育学
中学校の校歌にうたわれている山地に関する地理教育学的研究	2000	社会科教育学
アメリカ公民教育におけるサービスマーケティングに関する研究―社会参加の視点から―	2007	社会科教育学
多文化社会における「エクイティ教授」論に関する研究―アメリカの多文化教育実践を手がかりに―	2009	社会科教育学
アメリカにおける多文化的歴史カリキュラムに関する研究―「新しい社会史」論を手がかりとして―	2010	社会科教育学
公民科教師のライフストーリー研究―教科観の形成要因の分析から教科への希望を構成する―	2018	社会科教育学
西尾実国語教育論の探究	1998	人文科教育学
読みの教育における語彙意味論的方法の研究	2000	人文科教育学
国語科の成立過程と教科内容編成	2007	人文科教育学
国語科教育実践場面における予測不可能事象の研究―授業システム概念の構築と展開	2008	人文科教育学
日本語音声の言いあやまりの研究―韓国人に対する音声教育の観点から―	2008	人文科教育学
話し合い指導における視覚情報化ツールの活用	2013	人文科教育学
国語科における「古典」概念の形成過程	2016	人文科教育学
「学校文法」成立過程における指導内容の生成と収斂	2020	人文科教育学
学校数学におけるOpen-Approachによる指導の研究	1982	数学教育学
数学教育における公理的方法の役割	1985	数学教育学
数学教育における構成的方法に関する研究	1992	数学教育学
学校数学における「文字の式」の理解に関する研究―認知的コンフリクトによる理解の顕在化と分析―	2000	数学教育学
学校数学の一斉授業における数学的活動の社会的構成―社会数学的活動論の構築―	2000	数学教育学
数学学習におけるコミュニケーション連鎖の研究	2003	数学教育学
数学学習における「メタ思考」の機能とその促進に関する研究	2006	数学教育学
学校数学における証明活動の方法に関する研究―argumentationを視点として―	2018	数学教育学
理科における観察の機能に関する実験的研究	1985	理科教育学
ヴァーゲンシャイン科学教育論研究―範例的・発生的科学教授論の特質と重点移行―	1997	理科教育学
粒子理論の教授学習過程の構成と展開に関する研究 ―構成主義に基づく理科教授の構想と実践―	2012	理科教育学
理科教育における女子の学習促進のための授業構成に関する研究	2014	理科教育学
戦後日本の高等学校化学教科書における化学工業教材の変遷に関する研究	2016	理科教育学
理科教育におけるアナロジーによる教授ストラテジーの研究―中学生・高校生のアナロジーの使用特性に着目して―	2020	理科教育学
国際教育協力における理科の探究授業についての授業研究プログラムの構築と実践 ―東南アジアにおけるフィールド調査に基づいて―	2020	理科教育学
ドイツの「スポーツ科」にみる脱近代スポーツ種目主義への移行過程の研究― NRW の学習指導要領を中心に―	2016	体育教育学

人間総合科学研究科（旧研究科）

一貫制博士課程教育学専攻（旧課程）

教育基礎学専攻（旧課程） 博士後期課程学校教育学専攻（旧課程）

OB／OG 就職先

（対象：2002年度以降修了者・退学者等の主な進路状況）

【教育哲学】 田園調布大学、皇學館大学、鎌倉女子大学

【日本教育史】 熊本学園大学、東京学芸大学

【比較・国際教育学】 山梨県立大学、名古屋大学、金沢大学、常葉学園大学、高知県立大学、千葉大学、文教大学、兵庫県立大学、中園国際教育研究所、東洋大学、大阪教育大学、東京学芸大学、金沢大学、浜松学院大学、モスクワ市立教育大学外国語大学

【教育行政学】 文部科学省、宇都宮大学、共栄大学、東京女子体育大学、熊本学園大学、高知大学、タイ王国公立小学校、東京女学館大学、小田原女子短期大学

【教育制度学】 筑波大学、岡山大学、宇都宮大学、立教大学、聖徳大学、関西国際大学、釧路公立大学、松本短期大学、自由が丘産能短期大学、岡山学院大学、国際学院埼玉短期大学、短期大学基準協会他

【生涯学習・社会教育学】 山形大学、弘前学院大学、日本学術振興会特別研究員（PD）、浜松学院大学、帝京大学、東洋大学

【学校経営学】 大阪教育大学、修文大学短期大学部、茨城大学、鳥取環境大学、明治学院大学、上越教育大学、愛知東邦大学、名古屋短期大学、東京学芸大学、関東学園大学、関西外国語大学、北海道大学、大阪国際大学短期大学部

【カリキュラム論】：上越教育大学、名古屋学院大学、名古屋大学、獨協大学、大阪市立大学、東京学芸大学、中国・華東師範大学、筑波大学、筑波大学、小樽商科大学、台湾・国立嘉義大学副、韓国・教育課程評価院研究員、文教大学、聖徳大学、専修大学、長崎大学、浜松学院大学、兵庫教育大学、エリザベト音楽大学、昭和女子大学専任、東洋大学、東京農業大学他

【教育方法学】：茨城大学、岩手大学、香川大学、京都教育大学、聖徳大学、筑波大学、筑波大学、東洋大学、日本大学、宮崎大学、長野大学、東京成徳大学、育英大学他

【道德教育学】：大阪教育大学、尚絅大学、聖徳大学、筑波大学、新潟清陵大学、明治大学、中京大学、大阪国際大学、帝京大学教職大学院、独立行政法人「教職員支援機構」（教員研修センター）、関西外国語大学他

【教育工学】：韓国晋州大学校副、韓国全南第一高等学校教諭、タイ国コンケン大学教育学部中等教育副主任、バーレーン文部省教育メディアスペシャリスト、横浜桐蔭大学専任

【社会科教育学】：秋田大学教育文化学部、茨城大学教育学部、宇都宮大学教育学部、信州

大学教育学部、埼玉大学教育学部、静岡大学、中央大学文学部、筑波大学、筑波大学、東京学芸大学、新潟大学教育人間科学部、三重大学教育学部、宮城教育大学、早稲田大学、明治学院大学、鹿児島女子短大、東京福祉大学、麗澤大学、北海道教育大学、東北学院大学、群馬大学、奈良教育大学、信州大学、常磐大学、常葉大学、名古屋学院大学、静岡大学他

【人文科教育学】：上越教育大学、岐阜大学、横浜国立大学、白鷗大学、東京家政大学、祥明大学（韓国）、山形大学、埼玉大学、文教大学、鹿児島大学、つくば国際大学、岡山大学、新潟大学・、宇都宮大学、千葉大、北海道教育大学、千葉敬愛短期大学、筑波大学人文社会系、信州大学、常磐大学、島根大学、浜松学院大学専任、東洋大学、筑波大学

【数学教育学】：文部科学省、国立教育政策研究所、北海道教育大学、秋田大学、福島大学、宇都宮大学、群馬大学、上武大学、茨城大学、筑波大学、千葉大学、敬愛大学、埼玉大学、東京学芸大学、東京理科大学、東京成徳大学、明治学院大学、横浜国立大学、信州大学、上越教育大学、富山大学、金沢大学、新潟大学、愛知教育大学、相山女学園大学、奈良教育大学、立命館大学、鳴門教育大学、鳥取大学、山口大学、釜山大学（韓国）、コンケン大学（タイ）、宮城教育大学他

【理科教育学】：秋田大学、山形大学、山形大学、上越教育大学、上越教育大学、筑波大学、筑波大学、埼玉大学、郡山女子大学、東邦大学理学部、千葉大学、千葉大学、山梨大学、静岡大学、静岡大学、鹿児島大学、宮崎国際大学、愛知教育大学、常磐大学、他